

平成 30 年度 政務活動費支出整理簿

会派名 無所属

氏 名 伊藤 圓子

項 目	調査研究費		
費 目	旅費		
整理番号	月 日	支出額 (円)	支 出 内 容
1	5 / 10	37,660	調査視察 旅費・宿泊費 (宮城県女川町・宮城県仙台市) (日程、視察先等は調査視察等届出書等に記載)
2	5 / 29	125,680	調査視察 旅費・宿泊費 (大分県大分市) (日程、視察先等は調査視察等届出書等に記載)
3	7 / 4	145,020	調査視察 旅費・宿泊費 (長崎県佐世保市・広島県東広島市) (日程、視察先等は調査視察等届出書等に記載)
4	8 / 27	82,780	調査視察 旅費・宿泊費 (北海道帯広市) (日程、視察先等は調査視察等届出書等に記載)
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
小 計		391,140	備 考
合 計		391,140	

※案分による支出の場合は、案分率等を支出内容欄に記入してください。

平成30年4月20日

会派名 無所属  
代表者名 伊藤圓子様

氏名 伊藤圓子



### 調査視察等届出書

八戸市議会政務活動費の取扱いに関する要領第6条第1項の規定により、次のとおり届出します。

- 1 旅行者 伊藤圓子議員
- 2 期間 平成30年5月10日(木)～平成30年5月11日(金)
- 3 場所 宮城県女川町、宮城県仙台市
- 4 目的及び内容
  - ・宮城県女川町  
東北電力株式会社 女川原子力発電所 視察
  - ・宮城県仙台市  
東北電力株式会社 研究開発センター 視察  
東北電力株式会社 三居沢発電所 視察
- 5 経費 37,660円  
【内訳は、旅費額計算書（第4号様式）に記載のとおり】

旅費額計算書

旅行日程			旅費計算の基礎					
行	5/10	本八戸駅発 6:58 発	区分	基数	単価	金額	備考	
き	5/10	女川駅着 11:02 着	早見表					
帰	5/11	仙台駅発 12:54 発						
り	5/11	本八戸駅着 14:33 着						
経路・滞在地  別紙のとおり			鉄道運賃	302.6k	5,400	5,400	本八戸→女川	
				64.0k	1,140	1,140	女川→仙台	
				286.2k	5,080	5,080	仙台→本八戸	
			急行料金	特	1	3,680	3,680	八戸→古川 236.9k
					1	3,680	3,680	仙台→八戸 280.1k
			特別車両料金		1	3,090	3,090	八戸→古川 236.9k
					1	3,090	3,090	仙台→八戸 280.1k
			宿泊料		1	12,500	12,500	5/10 仙台市
			小計		37,660			
			合計 (小計×人数)		37,660	1名		

日程表 平成30年5月10日(木)～平成30年5月11日(金)

月 日	行 程	宿 泊
5月10日 (木)	<p>6:58 発                      7:07 着/7:17 発                      8:41 着/8:48 発                      9:00 着/9:27 発                      11:02 着</p> <p><u>本八戸</u> - JR八戸線 - <u>八戸</u> - JRはやぶさ8 - <u>古川</u> - JR陸羽東線 - <u>小牛田</u> - JR石巻線 - <u>女川</u></p> <p><u>13:00～15:30 東北電力株式会社 女川原子力発電所 視察</u> [住所]〒986-2293 宮城県牡鹿郡女川町塚浜字前田1</p> <p>17:52 発                      18:18 着/18:59 発                      19:56 着</p> <p><u>女川</u> - JR石巻線 - <u>石巻</u> - JR仙石東北ライン快速 - <u>仙台</u></p>	仙台上内
5月11日 (金)	<p><u>9:30～11:00 東北電力株式会社 研究開発センター 視察</u> [住所]〒981-0952 宮城県仙台市青葉区中山七丁目2-1</p> <p><u>11:30～12:30 東北電力株式会社 三居沢発電所 視察</u> [住所]〒980-0845 宮城県仙台市青葉区荒巻字三居沢16</p> <p>12:54 発                      14:13 着/14:25 発                      14:33 着</p> <p><u>仙台</u> - JRはやぶさ19 - <u>八戸</u> - JR八戸線 - <u>本八戸</u></p>	

平成30年6月5日

会派名 無所属  
代表者名 伊藤圓子様

氏名 伊藤圓子



### 調査視察等報告書

平成30年4月20日付けで届出した調査視察等を実施したので、八戸市議会  
政務活動費の取扱いに関する要領第6条第1項の規定により次のとおり報告しま  
す。

- 1 旅行者 伊藤圓子議員
- 2 期間 平成30年5月10日(木)～平成30年5月11日(金)
- 3 場所 宮城県女川町、宮城県仙台市
- 4 概要 別紙のとおり

## 視察調査報告書

1. 視察地：東北電力女川原子力発電所

宮城県牡鹿郡女川町塚浜字前田1

1. 視察日時：平成30年5月10日 13時00分～15時30分

1. 視察対応：東北電力女川原子力発電所 所長 鴫田真孝 氏

同 上 副所長 佐藤和広 氏

同 上 原子炉主任技術者 増井伸一 氏

### I. 視察調査目的

「エネルギー研究開発促進八戸市議会議員連盟」においての東北電力女川原子力発電所の視察については、今回が2回目の訪問である。

前回視察は、平成28年8月31日であり、議員17名が参加している。

今回視察の目的は、前回時は国内最大級の防潮堤が建設途中であり、平成30年に完成するとのことから、今回はその完成した防潮堤の現地調査と併せて、同発電所の安全性向上に向けた取り組みを更に確認する為のものである。

女川原子力発電所は大きな災害に遭遇したとしても、それに耐えられる発電所を目指して、5つの備えとして、①津波から施設を守る。②地震に対しての耐震性を更に強化。③命綱である電源の確保。④原子炉を冷却する手段構築と冷却水の確保。そして⑤放射性物質を閉じ込める。との備えで、何重にも設備の対策をしているとのことである。

このことは原子力発電所として、国民の生命や財産を守る上では不可欠なことであり、当然の使命でもあるといえる。

このことから、私達議員連盟においては、その取り組みの現状調査をするものである。

### II. 視察調査概要

今般の視察調査においては、八戸市長も同行し、その安全性の取り組みの現状を確認調査する為であり、まず女川原子力発電所 鴫田所長より御挨拶をいただいた。

その後、八戸市長及び議員連盟 坂本美洋会長より視察調査受入れの謝意を述べられたのである。

その後、別紙資料に従ってパワーポイントの映像によって「女川原子力発電所の安全性向上に向けた取り組み」について講義された。

以下、その概要について説明する。

まず最初に平成23年3月11日の東日本大震災の大地震発生後の女川原子力発電所における津波襲来状況、発電設備、電源の状況、あるいは地域住民の避難等が述べられた。

そこにおいては、同発電所にては、1号機から3号機まで起動あるいは運転中ではあつ

たが、地震発生後「止める、冷やす、閉じ込める」が正常に機能し、安全停止したという。

その主たる理由は①同発電所の敷地の高さが14.8mとかき上げしていたこと。②港側には海水ポンプ及びモーター類を設置していないこと。③震災の起きる前の2011年までに6600箇所の耐震工事を実施していたことが上げられるとのことであった。

#### (1) 津波から施設を守る安全性について

女川2号機設置許可申請時(昭和62年)は、その当時の想定津波の高さは9.1m程度であったが、委員会の専門的な意見を踏まえて14.8mに決定し、安全性を確認。

またさらなる安全対策の為、平成25年5月29日より、防潮堤の工事を開始。それは同発電所の海側総延長約800mを囲むものであって、鋼管式鉛直壁(約680m)＋セメント改良土による堤防(約120m)によつての津波対策である。

その高さは海拔29mという。

今回の視察調査は、その完成した現地を再び訪れて確認する為のものであった。

また津波に備えた対策としての海水確保は、取水路からの海水ピット化という奥行きを斜め状にして津波の引き波時に海水が残るようにして、その海水を除熱冷却をする為に汲み上げるというシステムである。

#### (2) 地震に備えた対策について

これは耐震化として1号機 約3,600箇所、2号機 約900箇所、3号機 約2,100箇所の合計 約6,600箇所の機器配管を含む工事を実施していたこと。

また、中央制御室制御盤への手すり棒を設置して、地震時には職員がそれを握り体を支えることによつて、安定した状態で操作、監視が可能ということである。

あるいは、旧館事務棟の耐震補強工事(筋交い)を実施し、事務棟新館は免震構造とした。

以上、地震に対して耐震性強化をして備えているとのことであった。

#### (3) 電源、冷却機能の確保における安全性について

緊急時の原子炉安全に対しては、電源及び冷却機能の確保が急務なことから、万が一の送電不能に対しては、電源車を高台に配置しての複数の電源設備、また空冷式ディーゼル発電機による大容量電源装置、ガスタービン発電機車によつての電源確保をして備えている。

あるいは、冷却機能としての大容量送水ポンプ車や代替注水車の配備、そして大型淡水貯水槽(約1万 $\text{m}^3$ )の設置をしているとのこと。

更には、既設の熱交換器が使用できなくなった場合に、その代わりとなる装置を載せた熱交換器ユニット車を配備して備えているとのことである。

#### (4) 放射性物質の閉じ込めの備えについて

これは、水素再結合装置を設置して触媒により水素と酸素を反応させ、水（ $H_2O$ ）に戻すことで、水素を除去し原子炉建屋内での水素爆発を防止するものだという。

また、原子炉格納容器の破損を防ぐため容器内の蒸気などを大気中に放出するにあたっては、その安全性の為に放射物質の量を抑制する「フィルタ付格納容器ベント装置」によって対策を施しているとのことである。

以上の概要が説明され、更なる安全策としての火災防護や緊急時対策所の整備等の内容も示された。

その後、施設内の視察、そして防潮堤の状況等を視察したのである。

但し、セキュリティーの関係上、写真撮影等は一切不許可であった。

### Ⅲ. 視察調査所感

今回の視察調査は、前回視察時（平成28年8月31日）にはまだ建設中であり、その完成した実状を調査し、女川原子力発電所の安全性について、どのように対策を施工しているかの確認であった。

それは、市民、国民の生命を守り、その財産を守り、安全性を構築して、より安心安全な社会づくりをすることは、議員としての責任であり任務でもあるからだ。

同発電所の防潮堤は鋼管式鉛直壁という大津波の破壊力にも耐えられる強固なものであり、海拔29mであるという。

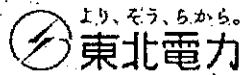
それは、もし津波が襲来したとしても最大23.1mを想定してのことであるとのこと。これは東日本大震災時における女川発電所に到達した津波は約13mであり、それに10mを加えた高さであるからだ。

そしてまた、地震に対する耐震化については、1,000ガルの揺れでも耐えられるように部材補強工事を施工したとのことである。これはやはり東日本大震災時での同発電所の揺れは567.5ガルだったそうで、それ以上を想定して耐えられる備えをしての安全性確保であるという。

今回の視察では、その安全性について調査確認を行ったわけだが、原子力発電所の事故は万が一の事故すらも発生してはならないし、発生させてもならない。その為には100%の、いやそれ以上の安全性が確保されていなければならないことは確かなことだ。

そのことを実感させられた視察調査であった。



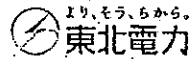


東北電力  
女川原子力発電所

執行役員  
所長

ときた  
嶋田 真孝

〒986-2293  
宮城県牡鹿郡女川町塚浜字前田1番  
代表番号 0225-53-3111  
FAX 0225-54-4379

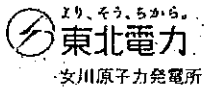


東北電力  
女川原子力発電所  
女川原子力PRセンター

副所長 佐藤 和広

〔総務部(広報)副長(PRセンター担当)]

東北電力株式会社女川原子力発電所 女川原子力PRセンター  
〒986-2221 宮城県牡鹿郡女川町塚浜字前田123番  
TEL 0225-53-3410  
FAX 0225-53-3286  
E-mail [REDACTED]



東北電力  
女川原子力発電所

原子炉主任技術者 増井 伸一

〒986-2293 宮城県牡鹿郡女川町塚浜字前田1番  
TEL(0225)-53-3111  
FAX(0225)-54-4379  
E-mail: [REDACTED]

## 視察調査報告書

1. 視察地：東北電力㈱研究開発センター

宮城県仙台市青葉区中山7丁目2-1

1. 視察日時：平成30年5月11日 9時30分～11時00分

1. 視察対応：東北電力㈱研究開発センター 副所長 星野 仁 氏  
同 上 主幹研究員 真島洋一 氏

### I. 視察調査目的

東北電力(株)は現在、電力の安定確保、安定供給、収益力強化、再生可能エネルギーの大量連携、先進技術への取り組みの強化等に関する研究開発を強化し、取り組んでいるという。

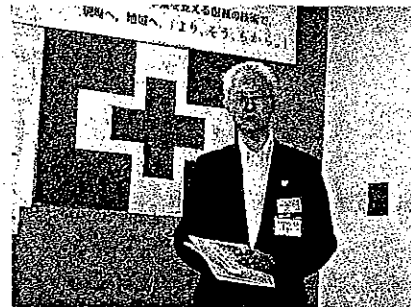
その要たるところが今回視察に訪れた「東北電力(株)研究開発センター」である。

八戸市議会における「エネルギー研究開発促進八戸市議会議員連盟」の設置目的は、八戸市においてのエネルギー関連事業の進展、また新たな研究開発を促進させることにあることから、同センター内にある水素技術を活用した再生可能エネルギーの出力変動対策に関する研究成果を視察するものである。

### II. 視察調査概要

今回の私達議員連盟の視察調査に対して、東北電力(株)研究開発センターの星野仁 副所長から説明がなされた。

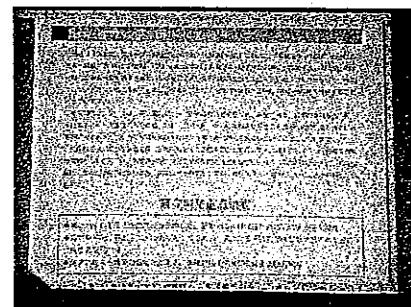
まず最初に東北電力の研究開発への取り組みの概要については、電力の安定確保、安定供給を支える研究開発を根底に据え、①新たなICTなど先端技術を活用した競争力および収益力強化に資する研究開発 ②高効率発電、再エネ対応技術高度化等による最適な電源構成および低炭素社会実現に資する研究開発 ③将来の成長と競争力強化を支える先駆的技術の獲得に資する研究開発の3点を東北電力の研究開発重点領域として位置付け、各課題の解決に向けて取り組むとともに、新たな技術の獲得に積極的に取り組み、その研究成果を着実に、かつ早期に業務へ導入し適用していくことを目指していくとの指針を示された。



星野仁氏



真島洋一氏



## (1) 水素製造技術を活用した再生可能エネルギーの出力変動対策について

このことについて、東北電力では再生可能エネルギーの更なる導入拡大に向け、水素製造に関する研究を行うこととしたという。

その導入拡大にあたっては、気象条件による出力変動の対策が課題となることから、蓄電技術を活用したものである。

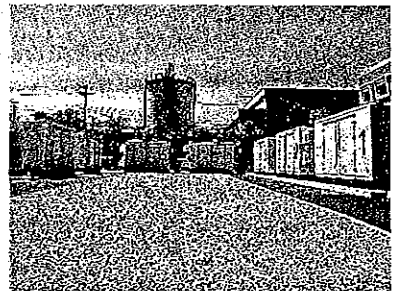
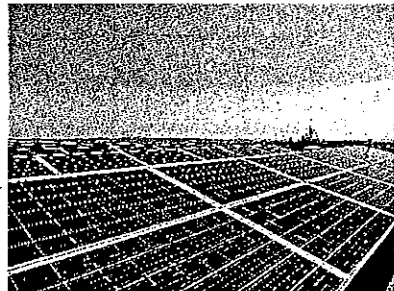
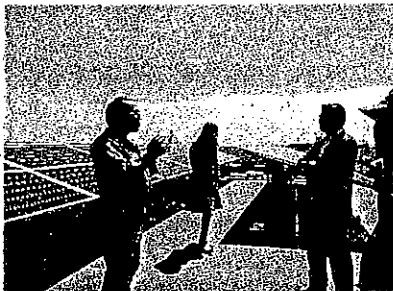
この水素製造に関する研究は、蓄電池の長所を生かしつつ、水素製造を組み合わせ、より効果的な対策を期待してのことである。

具体的には、研究開発センター内に、新たに太陽光発電設備や水素製造装置等を設置し、太陽光発電による電気を用いて水素を製造し、かつ貯蔵するというものであり、更にはこの水素を燃料に研究開発センター向けの電力を発電するという循環型の計画であるという。

つまり同センターの発電システムは、太陽光→発電(約 50kw)→水を電気分解 ( $H_2O$ ) → $H_2 + O$ →短周期成分を蓄電池で吸収 (約 50kw) →水素は水素貯蔵タンク (約 200N $m^3$ ) →水素とまた酸素を反応させて発電 (約 10kw) →電気発生→研究開発センターで使用となっている。※N $m^3$ とはノルマル立方メートルのことで温度が 0℃、圧力が 1 気圧の状態に換算した排出量を表わす単位。



以上のようなシステムであり、説明後、その研究実験の太陽光発電を設置している屋上及び水素製造装置のある同センター前庭の設備を現地視察したのである。



屋上の太陽光パネル

水素製造装置

## (2) 施設園芸のヒートポンプ適用に関する研究について

施設園芸は、作物の生育適期以外の時期にも栽培するため、ハウス内を常に生育に適した環境を保つのに、多くのエネルギーを必要とする。その為、東北地方の寒冷多雪の気象条件下では、冬場は石油に依存した暖房である。このことから、ヒートポンプは脱石油の省エネツールとして位置付けられる。そこで、同センターの研究では、施設園芸におけるエネルギーの高効率利用を目的に、ヒートポンプの多様な機能を効果的に利用してハウス内の環境を制御し、作物を安定的に生産する技術の確立に取り組んでいる。

つまりヒートポンプは、冬の暖房や夏の多湿期の除湿及び冷房にも効果的、効率的に利用しての農産物の一年を通しての良好な栽培環境を作り、生産性を向上させるとのことで

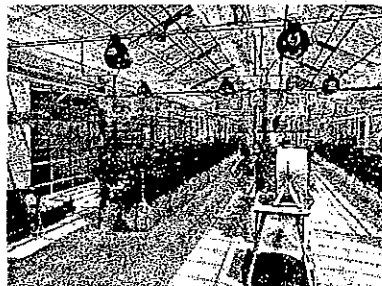
ある。

※ヒートポンプとは少ない投入エネルギーで、空気中から熱を集め、大きな熱エネルギーとして利用する技術である。

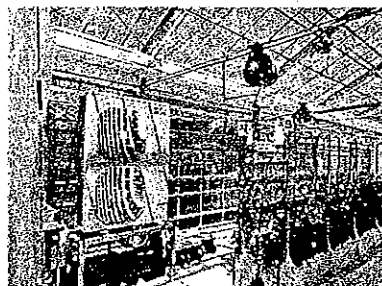
※同センターでは太陽光の熱をヒートポンプ化している。



太陽光利用のヒートポンプ



ヒートポンプ利用のハウス内



ハウス内のエアコン利用

### (3) 花まるホット・ラボ環境試験室について

この環境試験室は、東北各地の気温を模擬的に作ることができる装置であり、恒温室という断熱パネル構造の中に試験用モデル住宅が建設されており、外気を遮断して、その内部の住宅環境、温度や湿度を自由に変化させて研究をする設備装置である。

試験室は、温度 $-20^{\circ}\text{C}$ ～ $+45^{\circ}\text{C}$  湿度は40%～90%の範囲で任意に設定でき、気象データに基づき東北各地の実際の温湿度を再現して、短期間に暖房機器の性能評価などを行うことができるのだという。

その試験用住宅内には、様々な電気暖房システムを装置し、消費電力、各部屋の温度や湿度などを計測して経済性、快適性、省エネ性について検証研究しているとのことである。



試験室内の様子



温湿度の計測システム

## Ⅲ. 視察調査所感

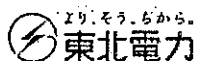
現在、日本国においては地球環境にやさしい「水素社会」の実現に向けた取り組みが進められており、日常生活や産業活動での水素エネルギーの利活用に関心が寄せられている。

東北電力においては、この水素エネルギーに対する研究を通じて、その知見や成果を東北地方をはじめ、広く社会に提供し、再生可能エネルギーの導入拡大に貢献していきたいとの理念であるという。

このことから、八戸市においては近未来の水素エネルギーを活用した「水素社会」の実現化に向けて、今後どのように構築化を図っていくかの対応が求められることになる。

また、八戸市においては、市川地区の苺のハウス栽培に関しても、太陽光を利用したヒートポンプ化について検討していくことになる可能性や、他の園芸・農産物についても同様のシステムとしての活用の可能性もあるのではないかと。

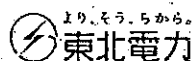
以上のことから、今回の東北電力(株)研究開発センターでの電力分野での研究は、いろいろな成果が期待されているし、東北地方各自治体においても注視し、今後の社会作りに対して利活用の促進をしていかなければならないと実感した有意義な視察であった。



研究開発センター

副所長 星野 仁

〒981-0952 仙台市青葉区中山七丁目2番1号  
代表電話 022-278-0356  
E-mail: [REDACTED]



研究開発センター(電気利用グループ)

主幹研究員 真島 洋一

東北電力株式会社  
〒981-0952 仙台市青葉区中山七丁目2番1号  
直通電話 022-799-9347  
代表電話 022-278-0356  
FAX 022-278-0506  
E-mail: [REDACTED]

## 視察調査報告書

1. 視察地：東北電力(株)三居沢発電所

宮城県仙台市青葉区荒巻字三居沢16

1. 視察日時：平成30年5月11日 11時30分～12時30分

1. 視察対応：三居沢電気百年館 薄井鎮雄氏

### I. 視察調査目的

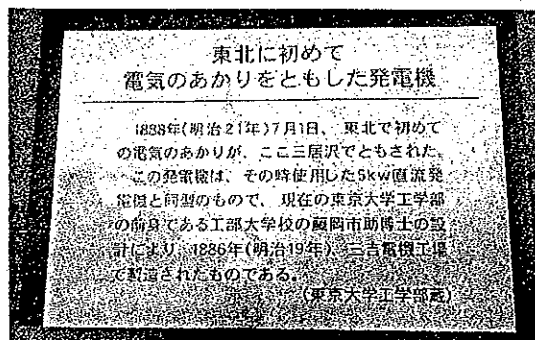
三居沢発電所の視察は、前日の東北電力(株)女川原子力発電所および同日午前中の東北電力(株)研究開発センターの視察調査の後、訪れるものである。同所は日本初の水力発電所として位置付けられ、東北で初めて発電された電気のあかりが灯った場所である。

「温故知新」という格言がある。これの「温」とは「あたためる」と読むのではなく、「たずねる」と読む。つまりこの格言は「故きをたずねて、新しきを知る」という意味であるのだ。

私達議員連盟による今回の一連の視察は、「温故知新」の格言の如くの視察であった。それは、女川原子力発電所あるいは研究開発センターで、現代の最も新しい電気エネルギーの現状や安全性を学び、確認することではあったが、それと共に先人の足跡を尋ね、原点に立ち返って電気エネルギーの発祥を学ぶことも大きな意味があるからだ。

この原点に立ち返っての研修や学習の積み重ねが、本議員連盟の目的と合致した、新しいエネルギーを研究開発し、促進する礎ともなるのではないか。

以上の目的から同発電所を視察するものである。



解説文

### II. 視察調査概要

#### ◎概要

現地においては、三居沢電気百年館職員 薄井鎮雄氏が出迎えてくれ、早速に案内をしながら、その概要を説明された。

杜の都仙台のシンボルとして市民に慕われている川が広瀬川であり、その水源は山形県境に位置する関山峠であり、仙台市内へと流れる。



薄井鎮雄氏

その都心部と川面との間には数10mの高低差がある段丘崖となっている。

三居沢発電所は、その広瀬川の高低差の水流を原動力としており、全国的にも類をみない市街地にある発電所であり、また我が国初の自家用発電所であるという。

私達視察団はそのことを聞き、仙台市にそのような発電所があったということを知らず、とても驚き感動したのであった。

### ◎三居沢発電所の歴史について

明治21年7月1日、宮城紡績会社の工場で機械の動力となっていた水車に出力5kwの直流発電機を取り付け、工場内に50灯の電灯と、その近くに位置する鳥崎の山頂に「アーク灯」を点灯したのが始まりだという。

その当時、初めて電灯が灯るということで、多くの市民がその「アーク灯」の周辺に参集して、その点灯を見守ったとのことを薄井氏は笑いながら語ってくれた。

そもそも日本国において、初めて電灯が点いたのは明治11年のことであり、その10年後に東北は仙台の地にも電気による灯が点いたのである。

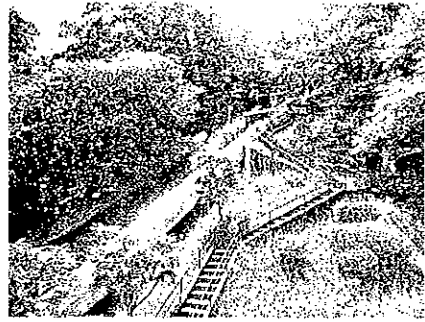
設備内容は、水車タービン1台40馬力の出力5kwであり、その後明治27年に電気事業を目的とした運転を開始し、水車40馬力、出力30kwとなった。

更には明治29年に発電所を建設して、水車タービン125馬力となって、交流発電機出力75kwとなったという。

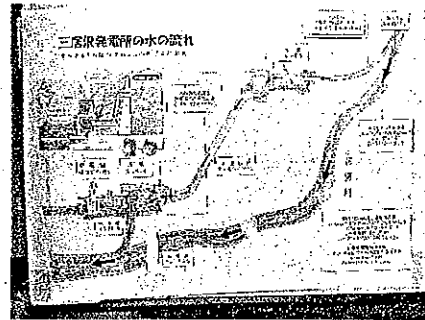
そして明治33年には、フランス水車に切り換え、交流発電機も2台と増強して、出力は600kwになり、その後明治42年には出力1,000kwになったのである。

この発電システムは現在も稼働中であり、発生させた電気を今なお供給しているという。

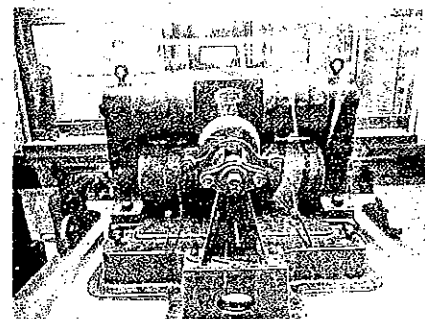
現在の発電所建屋は、明治41年に建設された木造平屋建てで、平成11年8月23日に国指定有形文化財と



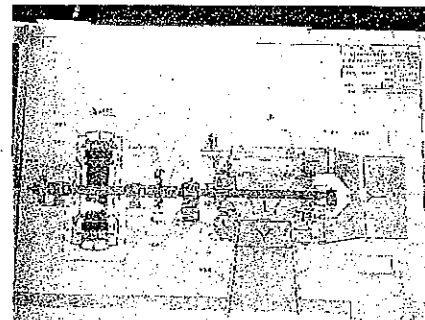
高所からの導入管



三居沢発電所の水の流れ



初期の発電機



水力発電機の原理



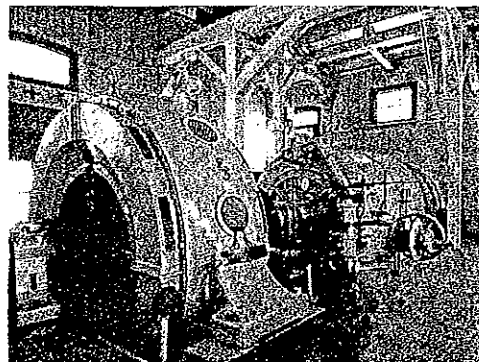
機械遺産認定プレート

して登録された。また、平成20年8月7日には、発電所関係機器ならびに資料群が「機械遺産」として、社団法人日本機械学会より認定されたのである。

以上の如くの説明をなされながら、下記写真の如くの施設を視察したのであった。



現在稼働中の水力発電機



水力発電機

### Ⅲ. 視察調査所感

抑々水力発電とは、水流の落差による位置エネルギーを利用することによって発電用水車を回転させて、発電機を動かして発電させるというシステムである。

原子力発電は、核エネルギーの熱源を利用して蒸気を発生させ、そのエネルギーで発電水車を回転させて電気エネルギーを発生させるシステムであり、火力発電は石油石炭を熱源とし、LNG発電はガスを熱源とし、やはり蒸気を発生させての電気エネルギーに転換させるものである。

つまり、共通していることは、水流や蒸気によって発電水車の回転力を吸収して電気エネルギーを発生させての利活用なのである。

このことから、私達議員連盟にとってはその原点たる東北初の水力発電所を視察し、その歴史と先人のエネルギー先見性を学習し、そのことを礎として未来を見据えるのである。

水力発電は「水」という再生可能エネルギーを有効活用した、もっともクリーンな発電手法である。

温室効果ガスや大気汚染の原因となるCO<sub>2</sub>も排出しない水流や水量を変化させることで発電量を容易にコントロールすることができるメリットがあるとのことだ。

山や水資源に恵まれた日本にとっては、まさに純国産のエネルギーであるといっても過言ではない。

しかし、一方で大型の水力発電所の建設は、森林など自然環境に対する影響が大きく、また山奥の遠隔地に建設されること等々から、多大な建設費用や送電コストの負担も大きい。

今般の三居沢発電所は、小規模な発電所ではあるが市街地にあり、貯水型ではなく流水高所型の発電というところに特異性がある。

そういう原点を学んだことは大変有意義であったし「水」という再生可能エネルギーの




本質性を学んだことも大きかった。

それは「水」(H<sub>2</sub>O)は、水素エネルギーを発生させるものでもあることを、午前中の東北電力(株)研究開発センターでも学んでいたことにある。

「水」の高効率化によるエネルギーの有効活用がこれからの求められる低炭素社会、省エネ社会、再生可能エネルギー社会を構築する上で重要な資源であることを再認識させられた有意義な視察であった。



水力発電発祥の地記念碑の前で

 三居沢電気百年館

薄井 鎮雄

〒980-0845 仙台市青葉区高砂字三居沢16  
TEL/FAX 022-261-5935  
●開館時間 AM10:00～PM4:00  
●休館日 毎週月曜・年末年始(月曜が祝祭日の場合は翌日)  
●文 函 -JR仙台駅より車で15分  
・仙台市営バス「三居沢交通公園前」下車徒歩3分

第3号様式（第6条、第8条関係）

平成30年5月21日

会派名 無所属  
代表者名 伊藤 圓子 様

氏 名 伊藤 圓子



### 調査視察等届出書

八戸市議会政務活動費の取扱いに関する要領第6条第1項の規定により、次のとおり届出します。

- 1 旅行者 伊藤 圓子 議員
- 2 期 間 平成30年5月29日(火)～平成30年5月30日(水)
- 3 場 所 大分県大分市
- 4 目的及び内容 連携中枢都市圏の取り組みと進捗管理について
- 5 経 費 125,680円  
【内訳は、旅費額計算書（第4号様式）に記載のとおり】

旅 費 額 計 算 書

旅 行 日 程			旅 費 計 算 の 基 礎					
行	5/29	本八戸駅発 8:40 発	区 分	基 数	単 価	金 額	備 考	
き	5/29	大分駅前着 17:23 着	早見表					
帰	5/30	荷揚町発 12:14 発						
り	5/30	本八戸駅着 20:33 着						
経路・滞在地 別紙のとおり			鉄道運賃	641.1k	9,610	17,280	本八戸⇄浜松町(往復割引)	
			急	特	2	6,160	12,320	八戸⇄東京 631.9k
			行					
			料					
			金					
			特別車両		2	4,110	8,220	八戸⇄東京 631.9k
			料 金					
			航空運賃		2	35,890	71,780	羽田空港⇄大分空港 (往復割引)
東京モーター		2	490	980	浜松町⇄羽田空港			
連絡バス		2	1,300	2,600	大分空港→大分駅前 荷揚町→大分空港			
宿泊料		1	12,500	12,500	5/29 大分市			
小 計						125,680		
合 計 (小計×人数)						125,680	1名	

日程表 平成30年5月29日(火)~30日(水)

月日	行程	宿泊
5月29日 (火)	<p>8:40 発 本八戸 - JR八戸線 - 八戸 - JRはやぶさ12 - 東京 - JR京浜東北根岸線 - 浜松町 - 東京モレール - 羽田空港 12:04 着/12:18 発 12:22 着/12:32 発 12:51 着</p> <p>14:35 発 羽田空港 - JAL667 - 大分空港 - 連絡バス - 大分駅前 16:10 着/16:30 発 17:23 着</p>	大分市内泊
5月30日 (水)	<p>9:00~10:30 大分市 視察 「連携中枢都市圏の取り組みと進捗管理について」 【住所】〒870-8504 大分市荷揚町2-31 大分市役所 【電話番号】097-534-6111</p> <p>12:14 発 荷揚町 - 連絡バス - 大分空港 - JAL670 - 羽田空港 - 東京モレール - 浜松町 - JR山手線 - 東京 13:25 着/14:40 発 16:10 着/16:40 発 16:57 着/17:02 発 17:08 着</p> <p>17:20 発 東京 - JRはやぶさ33 - 八戸 - JR八戸線 - 本八戸 20:12 着/20:25 発 20:33 着</p>	

平成30年6月18日

会派名 無所属  
代表者名 伊藤 圓子 様

氏 名 伊 藤 圓 子



### 調査視察等報告書

平成30年5月21日付けで届出した調査視察等を実施したので、八戸市議会議会  
政務活動費の取扱いに関する要領第6条第1項の規定により次のとおり報告しま  
す。

- 1 旅行者 伊藤 圓子 議員
- 2 期 間 平成30年5月29日(火)～平成30年5月30日(水)
- 3 場 所 大分県大分市
- 4 概 要 別紙のとおり

# 視察報告書

視察日 平成30年5月30日(水) 午前9時～10時30分

視察地 大分県 大分市

視察目的 連携中枢都市圏の取り組みと進捗管理について

視察議員 坂本美洋 大館恒夫 田名部和義 秋山恭寛 前澤時廣 吉田博司

壬生八十博 小屋敷孝 藤川優里 古館傳之助 伊藤圓子 工藤悠平

高山元延 岡田英

## 1、視察目的

八戸市は平成29年1月4日に「連携中枢都市宣言」をし、同年3月22日に「連携協約」を締結し、「八戸圏域連携中枢都市圏ビジョン」を策定している。将来都市像「地域の個性が輝き自立した八戸圏域」の実現を目指し、平成29年度より23の施策、64事業を展開しているところである。今回は、当市よりも早い平成27年12月に連携中枢都市宣言をし、28年3月に連携協約を締結した大分都市広域圏の取り組みや進捗管理を学ぶことによって、当市の今後の圏域の活性化につなげていくものである。

## 2、視察内容

連携中枢都市圏の取り組みと進捗管理について

### ①経緯

平成27年度より大分市、別府市、臼杵市、津久見市、竹田市、豊後大野市、由布市、日出町の8市町で、人口減少社会において有機的な連携による活性化を図る目的で、各市町単独で解決できない課題について協議した。

- \*各市町幹事(企画課長)・担当者会議→5回実施
- \*大分都市広域圏推進会議(各市町・町長会議)→3回実施
- \*大分都市広域圏ビジョン会議(外部有識者会議)→2回実施

### ②内容

7市1町で形成され、平成27年で778,552人、特色ある市町で形成されている。

\*大分都市圏の将来像

「人と地域を未来につなぐ大分都市広域圏」

\*今後の人口目標2025年(平成37年)

756,000人

\*圏域づくりの全体像

産業(圏域全体の経済成長のけん引)→5施策実施

都市機能(高次の都市機能の集積・強化)→3施策実施

住民サービス(圏域全体の生活関連機能サービスの向上)→23施策実施

\*大分都市広域圏専門部会について

幹事会→部会長は大分市(中心的存在)。2カ月に1回会議し、各専門部会との調整や大分都市広域圏推進会議の開催などを協議する。

商工観光部会、農林水産部会、福祉保健部会、環境部会、都市基盤部会、防災部会、一般廃棄物処理施設整備部会はそれぞれ担当課長が集まり、年3回程度の会議を行う。別添資料1に記載。

\*平成30年度実施事業

別添資料2に記載。

\*大分都市圏広域形成による効果について

昨年度末に設定したKPI(重要業績評価指標)に基づき今後検証していく。本年度は、中間年度となっている。

\*平成29年度大分都市広域圏観光PR事業

おおいた観光物産展を有楽町(東京)で実施。連携市町で物産、食をPR。数万人規模へのPR、物産等生産者の販路拡大の気運醸成等、事業実施の効果があつた。

\*公共施設の相互利用の促進における取り組み

インターネット接続可能な端末からアクセスし、公共施設案内を閲覧したり、予約をできるようにする。8000万円の予算をかけ、利便性の向上、利用率の向上を目指す。平成31年度4月からの供用開始を目指す。別添資料3に記載。

課題→各市町の料金体系ルール構築。議会議決を要すること。施設利用料金の支払い方法。(手間をかけない

## 方法)

### \*大分都市広域圏ホームページについて

広域圏単独でホームページを開設し、情報を発信している。他の広域ではあまり例を見ない取り組み。

別添資料4に記載

### \*Onsen Oita Wi-Fi Cityについて

平成27年より別府市、由布市、大分市で協議会を発足し、平成28年3月に運用開始し、同年4月に福岡市と認証連携を開始した。福岡市との連携により、福岡市で設定をするとそのまま大分市でも利用可能となった。大分市については、設置施設を毎年増やし、32施設となっている。構築費用については、交付税措置を受けている。別添資料5に記載

### \*今後の方針について

- ・KPIを昨年度末に設定し、これから初めて評価を行うため、評価の方法について研究をしていく。
- ・大分市と連携市町とは事業担当者に温度差や認識の違いがある。中心市として理解を促していく。
- ・連携市町は大分市に頼りがちとなり、事業の提案が少ない。
- ・事業の負担について、調整や統一理解が必要である。

## 3、質問

質：資料2について、専門部会で調整していない事業は？

答：市町参加自由の事業である。

質：大分都市広域圏小中学生交流事業の内容は？

答：小中学校の子どもたちと、大分トリニータの選手が交流する。市町持ち回りで、農業や漁業の体験を子どもたちにさせる。

質：アートレジオン推進事業の内容は？

答：過疎地に芸術家を招き入れ、廃校などをアトリエとして芸術文化を発信する。また芸術家に移住をしてもらう。

質：事業担当者に温度差があるということだが、具体的には？

答：市町の提案がない。特になしが多い。人がいないなどの理由をつけ、新しいことに対する抵抗感がある。大分市の担当者が直接出向き、説得や説明をしている。隙間をどう埋めていくかがこれからの課題である。

## 4、所感

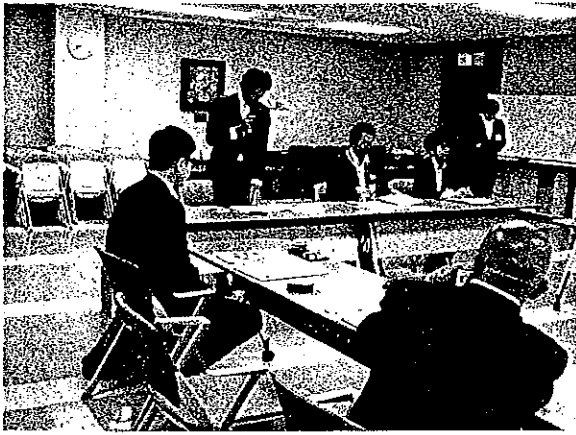
今回、大分都市広域圏の様々な取組を学んだ。観光PR事業では、東京で実施することにより大きな効果を上げている。やはり、消費人口の多い場所で実施することが宣伝効果に直結する。八戸市も積極的に関東中心にPRを仕掛けていくべきである。また、公共施設の利用率を上げるため、インターネットを使って予約ができるシステムは非常に利用者にとっても便利であると思う。是非、当市圏域についても検討をして欲しいものである。

いろいろな取組を進めていく上で、連携する市町との温度差が課題に挙げられていた。これは、どこの圏域でも抱えている大きな問題であろう。どうしても、中心市に頼りがちになり、おんぶにだっこという感が否めないかもしれない。連携する町村に対し八戸市も共通理解をしながら、積極的に歩み寄るとともに歩を前へ進めていく姿勢が不可欠と考える。新しいことへの抵抗というものは、誰しも持っているものである。しかしながら、そこを突破する力はお互いの協力体制ではないか。さらなる八戸圏域連携中枢都市圏の事業推進を期待するところである。また、KPI（重要業績評価指標）についても、しっかりと評価方法を研究し、事業それぞれの効果について検証されなくてはならない。

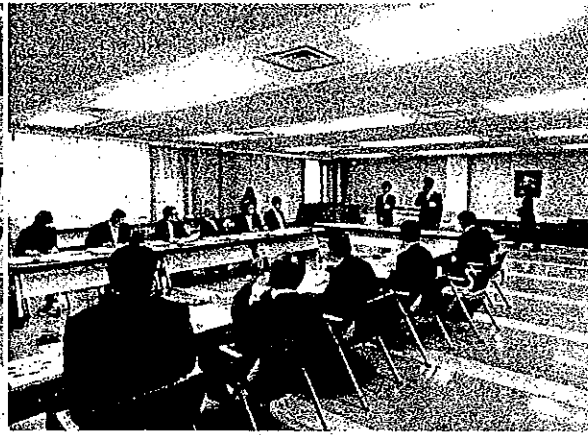
人口減少、少子高齢化等に対し、地域の特性を生かし、しっかりと対応していかななくてはならない。各自治体の強みを生かし、弱みを補完しながら様々な課題に立ち向かっていくことが大事となる。八戸市も圏域の中心都市としての役割を果たすため、常にアンテナを高く張り巡らせ、対応していかななくてはならない。

## 5、写真

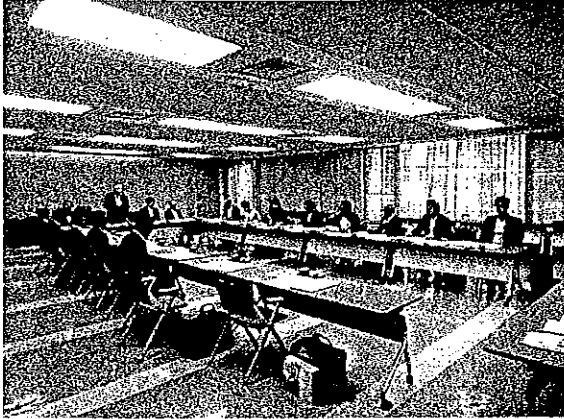




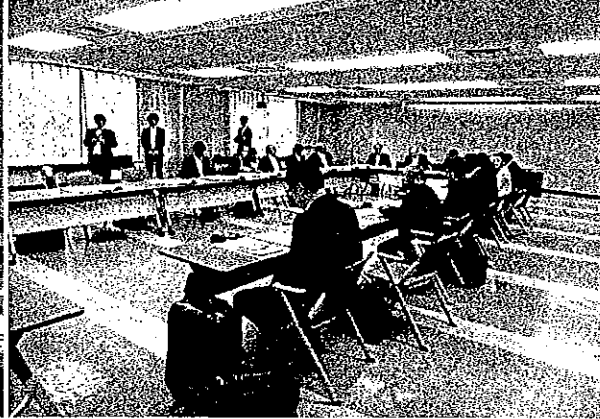
▲大分市議会副議長の高野氏より挨拶



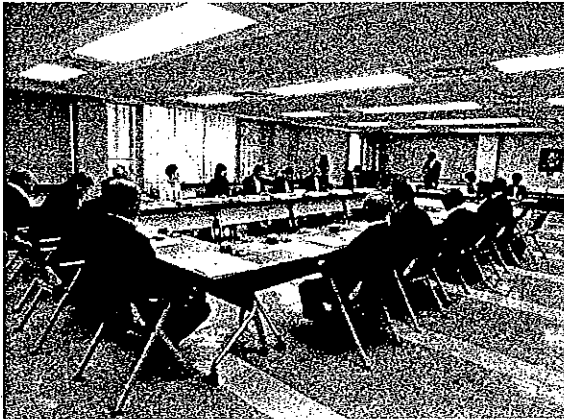
▲大分市企画部企画課の金子氏より挨拶



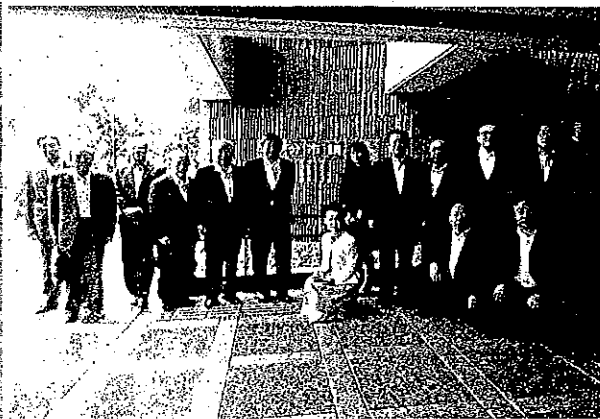
▲議員連盟の坂本会長より挨拶



▲説明を聞く議員団



▲説明を聞く議員団



▲議会棟前にて集合写真



大分市 企画部 企画課

参事 金子明弘

〒870-8504 大分市荷揚町二番三十一号  
TEL (097) 537-1611 (内線4840)  
TEL (097) 537-1603 (直通)  
FAX (097) 534-6182  
E-Mail: kikaku@city.oita.oita.jp

大分市議会

副議長 高野博幸

市議会

〒870-8504

大分市荷揚町二番三十一号

電話(097) 532-1454



味力いっぱい 大分市



大分市役所 企画部 企画課

主査 朝吹 嘉友  
Asabuki Yoshitomo

〒870-8504 大分市荷揚町2番31号  
TEL 097-537-5603 FAX 097-534-6182  
E-mail : kikaku@city.oita.oita.jp / asabuki.yoshitomo@city.oita.oita.jp



平成30年6月5日

会派名 無所属  
代表者名 伊藤 圓子 様

氏名 伊藤 圓子



### 調査視察等届出書

八戸市議会政務活動費の取扱いに関する要領第6条第1項の規定により、次のとおり届出します。

- 1 旅行者 伊藤 圓子 議員
- 2 期間 平成30年7月4日(水)～平成30年7月6日(金)
- 3 場所 長崎県佐世保市、広島県東広島市
- 4 目的及び内容
  - ・長崎県佐世保市  
アルカスSASEBO 視察
  - ・広島県東広島市  
東広島芸術文化ホールくらら 視察
- 5 経費 145,020円  
【内訳は、旅費額計算書（第4号様式）に記載のとおり】

第4号様式 (第6条、第8条関係)

旅 費 額 計 算 書

旅 行 日 程			旅 費 計 算 の 基 礎							
行	日	時刻	区 分	基 数	単 価	金 額	備 考			
行	7/4	本八戸駅発 9:32	早見表							
	7/4	佐世保駅着 18:42								
帰	7/6	東広島駅発 11:15								
	7/6	本八戸駅着 19:37								
経路・滞在地  別紙のとおり			鉄道運賃	641.1k	9,610	9,610	本八戸→浜松町			
				48.7k	940	940	大村→佐世保			
				1,929.9k	19,850	19,850	佐世保→東広島→本八戸 (JR九州加算含む)			
			急 行 料 金	特	2	6,160	12,320	八戸⇄東京 631.9k		
					1	1,230	1,230	佐世保→博多 117.0k		
					1	4,610	4,610	博多→東広島 312.5k		
					1	6,900	6,900	東広島→東京 862.4k		
			特別車両 料 金	2	4,110	8,220	八戸⇄東京 631.9k			
				1	1,570	1,570	佐世保→博多 117.0k			
				1	7,650	7,650	東広島→東京 862.4k			
			航空運賃	1	46,390	46,390	羽田空港→長崎空港			
			バス運賃	1	240	240	長崎空港→大村			
			東京モーター	1	490	490	浜松町→羽田空港			
			宿泊料	2	12,500	25,000	7/4 佐世保市 7/5 東広島市			
			小 計						145,020	
			合 計 (小計×人数)						145,020	1名

日程表 平成30年7月4日(水)～6日(金)

月 日	行 程	宿 泊
7月4日 (水)	<p>9:32 発 9:41 着/10:16 発 13:04 着/13:17 発 13:23 着/13:28 発 13:44 着            本八戸 - JR八戸線 - 八戸 - JRはやぶさ14 - 東京 - JR山手線 - 浜松町 - 東京モルール - 羽田空港</p> <p>14:30 発 16:20 着/16:50 発 17:04 着/17:34 発 18:42 着            羽田空港 - JAL611 - 長崎空港 - 連絡バス - 大村 - JR大村線 - 佐世保</p>	佐世保市内
7月5日 (木)	<p>9:00 ~ 11:00 長崎県佐世保市 アルカスSASEBO 視察            住所: 〒857-0863 長崎県佐世保市三浦町2-3 Tel:0956-42-1111</p> <p>11:42 発 13:34 着/14:00 発 16:02 着            佐世保 - JR特急みどり14 - 博多 - JRこだま746 - 東広島</p>	東広島市内
7月6日 (金)	<p>9:00 ~ 10:30 広島県東広島市 東広島芸術文化ホールくらら 視察            住所: 〒739-0015 広島県東広島市西条栄町7-19 Tel:082-426-5900</p> <p>11:15 発 11:49 着/11:59 発 15:33 着/16:20 発 19:08 着/19:29 発 19:37 着            東広島 - JRこだま736 - 福山 - JRのぞみ22 - 東京 - JRはやぶさ31 - 八戸 - JR八戸線 - 本八戸</p>	

平成30年8月21日

会派名 無所属  
代表者名 伊藤 圓子 様

氏名 伊藤 圓子



### 調査視察等報告書

平成30年6月5日付けで届出した調査視察等を実施したので、八戸市議会政務活動費の取扱いに関する要領第6条第1項の規定により次のとおり報告します。

- 1 旅行者 伊藤 圓子 議員
- 2 期間 平成30年7月4日(水)～平成30年7月6日(金)
- 3 場所 長崎県佐世保市、広島県東広島市
- 4 概要 別紙のとおり

# 視察報告書

視察日 平成30年7月5日(木) 午前9時~11時

視察地 長崎県 佐世保市

視察目的 アルカスSASEBO視察

視察議員 坂本美洋 大館恒夫 工藤悠平 森園秀一 藤川優里 伊藤圓子

吉田淳一 高橋一馬 日當正男 岡田英

## 1、視察目的

八戸市においては、平成9年度から県立八戸芸術パークの整備を最重要要望事項として、青森県に対して要望しているところである。しかしながら、県の示す処理方針では「新たな行財政改革大綱を踏まえると、長期的な視点で捉えざるを得ないものと考えている」とされ消極的姿勢である。当市においては、新美術館の建設も決まり、新たな文化芸術施設に対する気運がますます高まってきているところである。それを受け、改めて県に対しては、ホール等を中心とした県立八戸芸術パークの整備に向けた検討を強く要望するものである。今回のアルカスSASEBOを視察することにより、運営方法、市民生活や経済、観光に対してもたらず波及効果を学び、文化施設整備の重要性、必要性を認識し、さらに県へ整備検討の要望をしていくものである。

## 2、視察内容

### \*施設概要について

敷地面積 10,453 m<sup>2</sup>

階数 地上6階・地下1階

建築延面積 22,598 m<sup>2</sup>

建築工事費 152億円 長崎県 129億円 佐世保市 23億円

①大ホール 400インチスクリーンを備える。能舞台や歌舞伎にも対応。日本舞踊、各種コンサートに対応した多目的ホールとなっている。詳細は別紙説明資料に記載。

②中ホール 一切の幕類がない。音楽専用ホールとなっている。詳細は別紙説明資料に記載。

③イベントホール 主に地元のコンサートやお芝居に使われている。詳細は別紙説明資料に記載。

④大中小会議室等 全て3階に集約している。大会議室は3分割仕切り可能、中会議室は2分割仕切り可能。特別会議室、応接室、和室、茶室もある。詳細は別紙説明資料に記載。

⑤リハーサル室 地下1階 ピアノを収納してある。詳細は別紙説明資料記載。

⑥練習室 大中小3種類用意。詳細は別紙説明資料記載。

⑦和室 詳細は別紙説明資料記載。

⑧茶室 詳細は別紙説明資料記載。

⑨交流スクエア 写真展示会、絵画展、ミニコンサートに利用される。利用料は無料。詳細は別紙説明資料。

その他 2階 地域交流センター内

佐世保市男女共同参画センター「スピカ」研修会場、調理室併設。

### \*施設の設立に至る経緯について

別紙説明資料に記載。

### \*運営方法について

①運営根拠条例 長崎県条例 佐世保市条例 詳細は別紙説明資料記載。

②運営主体 「指定管理者」公益財団法人佐世保地域文化事業財団（平成18年4月1日から）  
3期目の2年目。詳細は別紙説明資料記載。

### ③財団の運営方針

・県北地域の文化振興と地域活性化に寄与する。詳細は別紙説明資料記載。

### ④当施設における財団の事業目的

・文化活動水準の向上等。詳細は別紙説明資料記載。

### ⑤運営について

・利用料金制度の採用

利用料収入は1億円あり、自主文化事業運営に充てている。詳細は別紙説明資料記載。

・企業協賛金制度の導入

平成16年度から募集している。ジャパネットから年間500万円、その他企業から、100万円あり。



・会員制度（アルカスクラブ会員）

オレンジ会員、ホワイト会員導入。会員数は約 2000 名。最盛期は 3000 名程だった。減少傾向。

・ホールスタッフボランティアの導入

自主事業のチケットもぎり、お客様の案内、ポスター掲示のお願い等、60 名が登録している。

・市民参加型事業の実施

演劇サークル、ワークショップの実施。開館 20 周年に向けてオリジナル公演を予定。

・自主企画事業の企画実施

自主企画事業

メディア、プロモーターとの共同事業

\*アルカス SASEBO がもたらす波及効果について

①市民生活

・新たな市民の文化活動の拠点。文化事業発信の場。詳細は別紙説明資料記載。

②観光・経済波及

・大型コンベンションの誘致（平成 29 年度実績 全国規模 4 件、九州規模 7 件）

・コンベンションプログラムの中での観光視察や自主観光が組まれる。

・文化事業の展開による、周辺地域への効果。

・施設自体がもたらす直接効果

詳細は別紙説明資料記載。

\*利用実績について

稼働日数	平成 29 年度	大ホール	76.3%
		中ホール	61.8%
		小ホール	67.0%
		会議室	90%以上とかなり高い稼働率を保っている。

詳細は別紙の施設の利用実績に記載。

3、質問

質：指定管理料は？

答：平成 29 年度は佐世保市から 2 億 8000 万円もらっている。

質：指定管理料の県と市の内訳は？

答：全て佐世保市からもらっている。ホールの修繕費は県へ、会議室の修繕費は市へ予算要求する。130 万円以下は独自で、それ以上は市、県へ要求。

質：ホールの収入 9500 万円、駐車料 500 万円の収入はどこに入るのか？

答：指定管理者に入る。

質：建物の所有は、県と市の区分はあるか？

答：ホールは県、会議室は市の所有となる。共有部分は県が 8 割、市が 2 割となる。

質：駐車場は何台の収容か？

答：利用者 50 台、主催者 70 台、利用者用は隣接、主催者用は裏にある。

質：財団の職員はプロパーか市の職員か？

答：プロパー。市の職員は入っていない。オープンから 3 年間は市の職員が入っていた。

質：市の指定管理は公募制か？

答：非公募である。財団が運営をしている。

質：コンベンションの誘致は、市がやっているのか、財団か？

答：コンベンション協会と財団が連携してやっている。

質：コンベンション助成金について知りたい。

答：宿泊の人数により、助成金が出る。

質：50本の自主事業は、1億円で賄えているのか？

答：1億8000万円かかっている。文化庁からの1800万円の助成金、企業からの800万円の協賛金、入場料収益2700万円（チケット代）が投入されている。

質：自主事業の赤字分の補てんは？

答：積立金から取り崩している。積立金は、オープン当時からの余剰金。入場者が落ち込み、入場料も落ち込んでいる。そこをどうするかが課題となっている。また、18年の歳月を経ており、修繕費もかさんでいる。

質：アルカスと同じような規模の施設はあるか？

答：今年3月に閉館し、600人規模の市民文化ホールはあるが、1000人規模の施設はない。その分、利用者がアルカスに移ってきている。

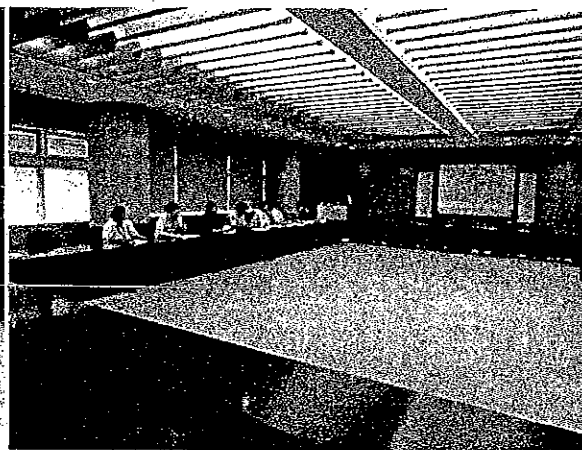
質：会員の減少の原因は？

答：高齢化が進み、ホールに足を運ぶ人が減ったため。観賞事業も多くの収容に結びついていないのも課題としてある。魅力的な自主事業を目指して、会員増につなげていきたい。

#### 4、所感

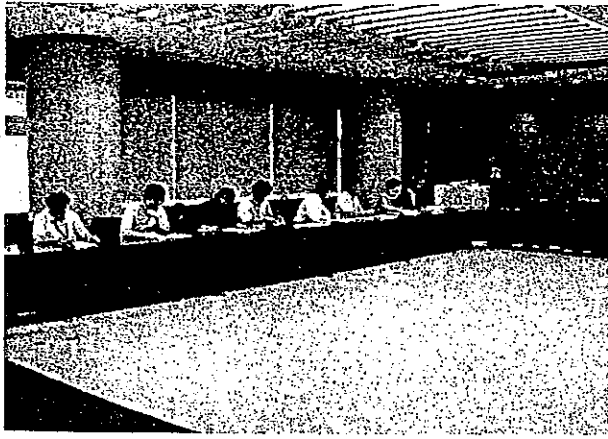
今回の視察を終え、アルカスSASEBOが、市民にとっての文化活動の拠点であり、発信活動により、他地域への影響も多大であることを理解した。様々な文化活動を通し、市民に潤いを与えていることは、市民にとってもより充実した生活が送れるのではないと思う。ただ、指定管理者が自主事業を企画をし、お客様をたくさん集めることに苦勞され、努力をされていることも見逃してはならないことである。この点が、指定管理者の宿命でもあり、苦勞するところでもある。会員数の減少の原因の一因ともなっている。多くの来館者に来ていただくために、なお一層の努力を求められるであろう。また、建物の修繕費もここ近年かさんでいるということで、維持管理費の部分も将来的に視野に入れていかねばならないことも当然である。プラス面とマイナス面をうまく見極めながら、市民にとっても潤いのある生活が提供できるよう八戸市も県と協力しながら、文化施設の整備に努めていくべきではないか。

#### 5、写真

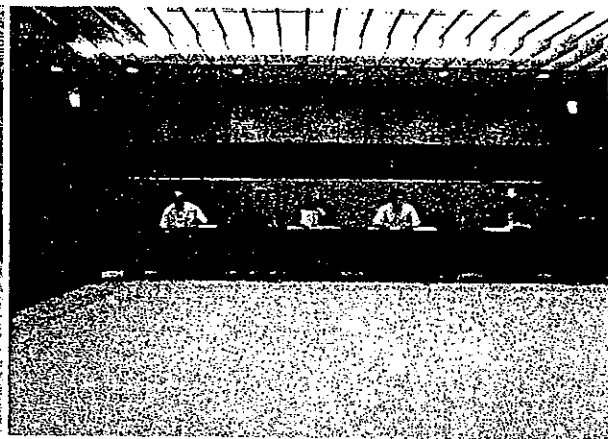


▲受入れ感謝のあいさつをする坂本会長

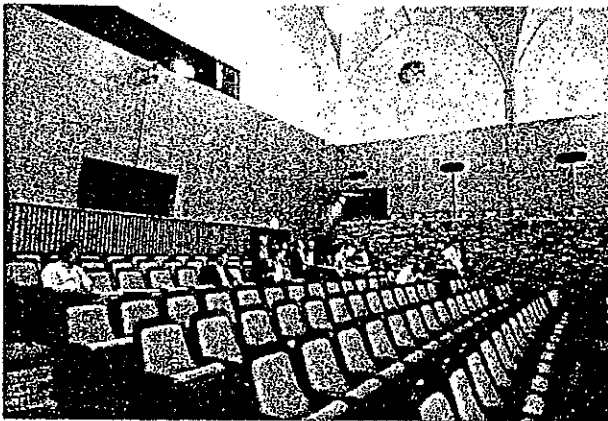
▲説明を聞く議員団



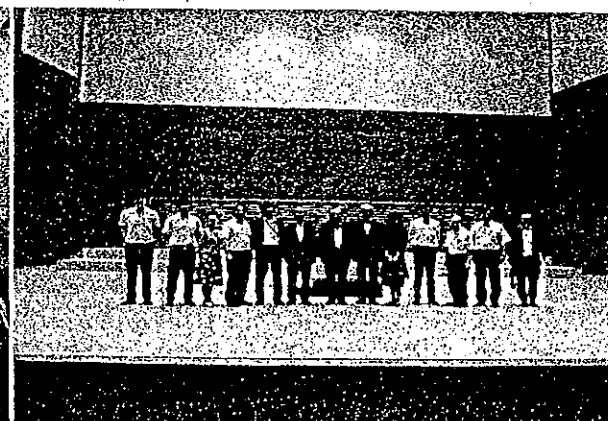
▲説明を聞く議員団



▲説明を聞く議員団



▲館内を視察する議員団



▲館内で集合写真



▲館内で集合写真

## 6、名刺



公益財団法人佐世保地域文化事業財団  
〒857-0863 佐世保市三浦町2-3  
TEL.(0956)42-1111(代) FAX.(0956)24-0051  
E-mail: [redacted] <http://www.arkas.or.jp>

## 「東広島芸術文化ホール くらら」 視察

テーマ：東広島芸術文化ホール くらら の視察

- ・視察地：東広島芸術文化ホール くらら  
(広島県東広島市西条栄町7番19号)
- ・会場：東広島芸術文化ホール くらら
- ・視察日時：平成30年7月6日
- ・視察対応：東広島市議会事務局 局次長 弓場 潤 様  
東広島市教育委員会生涯学習部文化課 芸術振興係長 永井康様  
同 芸術振興係 主任 山田佳子様  
東広島芸術文化ホール 館長 森本浩司 様

### 1. 視察目的

「東広島芸術文化ホール」は平成27年11月に完成し、平成28年度より運営を開始した。

平成29年2月26日には早くも来場者30万人を達成し、順調に運営を進めている。この新しい「東広島芸術文化ホール」を視察し、今後の県立八戸芸術パーク・屋内スケート場早期建設促進八戸市議会議員連盟の活動に活かし、早期の県立八戸芸術パーク建設促進の取組に参考とするものである。

### 2. 概要

最初にプロジェクターを使用し、東広島市教育委員会生涯学習部文化課芸術振興係主任山田佳子様より説明があり、その後東広島芸術文化ホール館長森本浩司様の案内で館内を特に大ホール、小ホールを中心に見学した。

概要は次の通りである。

#### ☆ホールの概要

- ・所在地：東広島市西条栄町7番19号(西条駅より徒歩4分)
- ・敷地面積：5931.57㎡
- ・建築面積：5240.79㎡
- ・建蔽率：88.35%
- ・延床面積：13338.28㎡
- ・容積率：224.8%
- ・構造：鉄筋コンクリート造(一部SRC造・S造)

- ・階数：地上6階、地下1階

#### ☆概算事業費

- ・用地取得費：約8.2億円
- ・建設工事費：約66.7億円
- ・調査設計、工事監理費他：約3.8億円
- ・備品購入費：約2.5億円
- 合計：約81.2億円

#### ☆財源内訳

- ・国費：約8.5億円（国交省社会資本整備交付金：約8億円、GND基金：約0.46億円）
- ・起債（合併特例債）：約65.5億円
- ・基金（文化体育施設建設基金）：約3.1億円
- ・一般財源：約4.1億円
- 合計：約81.2億円

#### ☆整備の経緯

- 1、「新市建設計画」での位置付け（平成16年3月）
- 2、東広島市都市機能調査（平成21年3月）
- 3、基礎調査を実施（平成21年3月）
- 4、市民ホール建設用地の先行取得（平成21年5月）
- 5、基本構想（平成22年5月）基本計画（平成22年11月）
- 6、基本設計（平成23年5月～平成24年1月）公募アール方式
- 7、各種ヒアリング（平成23年11月～平成24年1月）
- 8、実施設計（平成24年8月～平成25年8月）
- 9、建設工事（平成25年6月29日～平成27年11月30日）

#### 視察総括

広島県央の交通結末点という恵まれた立地条件や学術・技術・研究機能の集積を活かした高度・先端産業や地場産業の振興に努めている東広島市にある

「東広島芸術文化ホール」は「ひと・まち・文化をむすび 芸術を育む 感動と共感の舞台」を基本理念として掲げ

- ① ふれる（世界の優れた文化や芸術にふれる）
- ② そだてる（地域文化や人を支えそだてる）

③ つくる (地域文化を創造し発信する)

④ つなげる (人が集い、交わり、ひろがる)

をテーマにしている。

そして、この施設は文化芸術等を基軸にしたまちづくりの拠点施設として計画され、近隣に位置する新東広島市庁舎や西条中央公園など中心市街地一帯のまちづくりの中核施設となっている。

JR西条駅から徒歩4分、また酒蔵のある西条酒造通りにも近く、中心部地区に求められる「行政機能、文化芸術機能、交通ネットワーク機能」の一躍を担っている。

建物も主要前面道路に面し、ガラス張りとし、外部と内部の一体感を醸しだしている。プラン的にも大きく「大ホール」と「小ホール」を左右にし、共有エリアとして、その間に「こもれび広場」、「ギャラリー」を配した機能的な設計である。出入り口、搬入口も機能的に共有エリアに入れるような設計である。

防災上の避難経路としても良く考えられている。

「大ホール」はプロセニウム形式で、座席数は1206席、内車椅子6席(1階席：667席、2階席：188席、3階席：189席、4階席：162席 各階にサイドバルコニー席を配置)あり、舞台は16.4m×16.4mである。またオーケストラピット音響反射板の機構がある。「小ホール」の座席数は245席、内車椅子3席、舞台は12.7m×9m、また舞台の一部を下げ、スタッキングチェアを置くことができるため、最大305席、内車椅子3席、舞台12.7m×5.4mとすることが可能である。また音響反射板の機構がある。更に階段状の客席を収納し、ステージと同じ高さの平土間とすることができ、最大200名のパーティ利用が可能である。

駐車場は施設から徒歩2分の所にある市営岡町駐車場を立体化し、228台が駐車可能である。

主な各種公演も充実しており、有名歌手、劇団、落語家その他のコンサート、公演そして地域に根差した地域イベント等を開催している。そのため来館数は当初の市見込みの年間20万人、指定管理者見込みの25万人を平成28年度実績で32.7万人、平成29年度実績で32.9万人と大きく実績をあげている。

稼働率に関しても見込みの70%を上回る、平成28年度は75%、平成29年度は76%である。


しかし、来場者は60歳代以上が半数を占め、若い世代の来場者増が課題である。

今回の「東広島芸術文化ホール」を視察し、順調に進んでいる事例を見ることができ非常に参考になった。今後の県立八戸芸術パーク・屋内スケート場早期建設促進八戸市議会議員連盟の活動に活かしていきたい。そして早期の県立

八戸芸術パークの早期建設活動に取り組んでいきたい。  
今回の視察は大変有意義な視察であった。

# お 名 刺



 東広島市議会事務局

局次長  
弓 場 潤



〒739-8601  
東広島市西条栄町 8 番 29 号  
TEL: 082-420-0966 FAX: 082-424-9465  
E-Mail: hgh200966@city.higashihiroshima.lg.jp



東広島市教育委員会  
生涯学習部 文化課

芸術振興係長  
永 井 康

〒739-8601 広島県東広島市西条栄町8番29号  
TEL: 082-420-0977 FAX: 082-422-6531  
E-mail: hgh200977@city.higashihiroshima.lg.jp



東広島市 教育委員会  
生涯学習部 文化課  
芸術振興係  
主任  
山田 佳子



東広島芸術文化ホール  
Higashi Hiroshima Arts & Culture Hall

739-8601 東広島市西条栄町 8 番 29 号  
TEL: 082-420-0977/FAX: 082-422-6531  
hgh200977@city.higashihiroshima.lg.jp

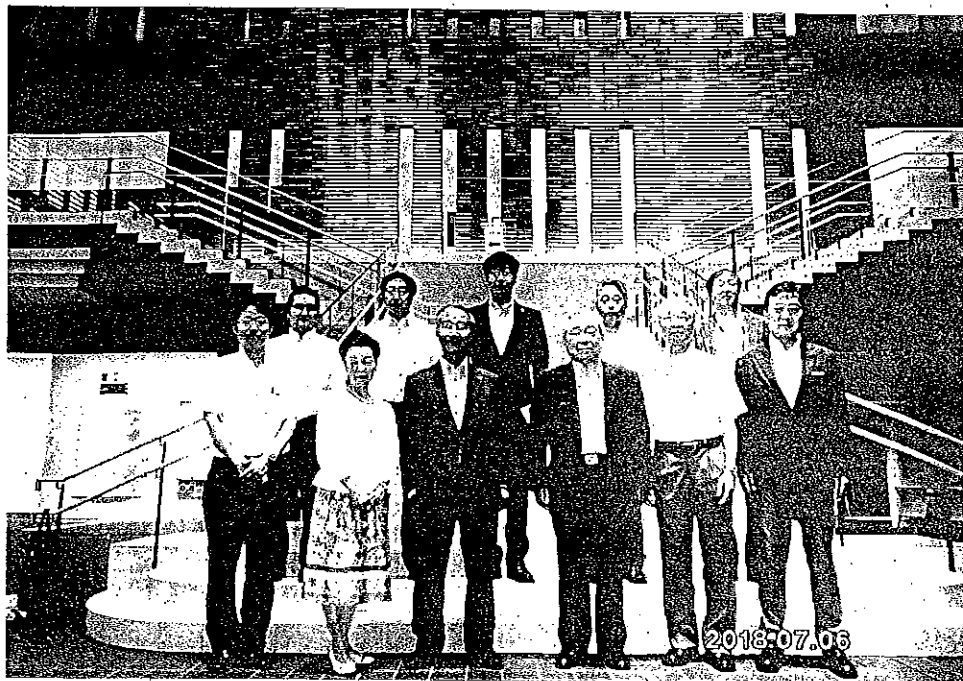
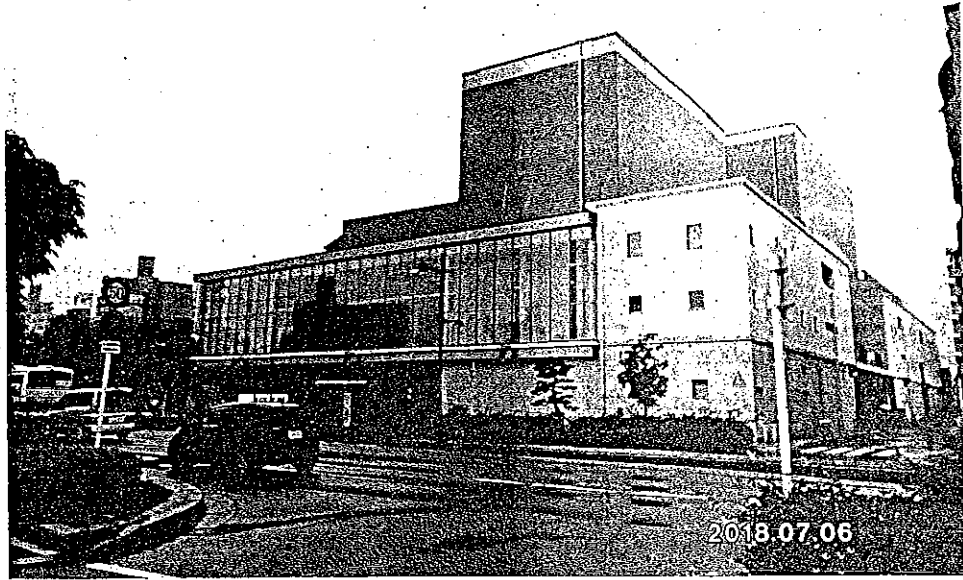


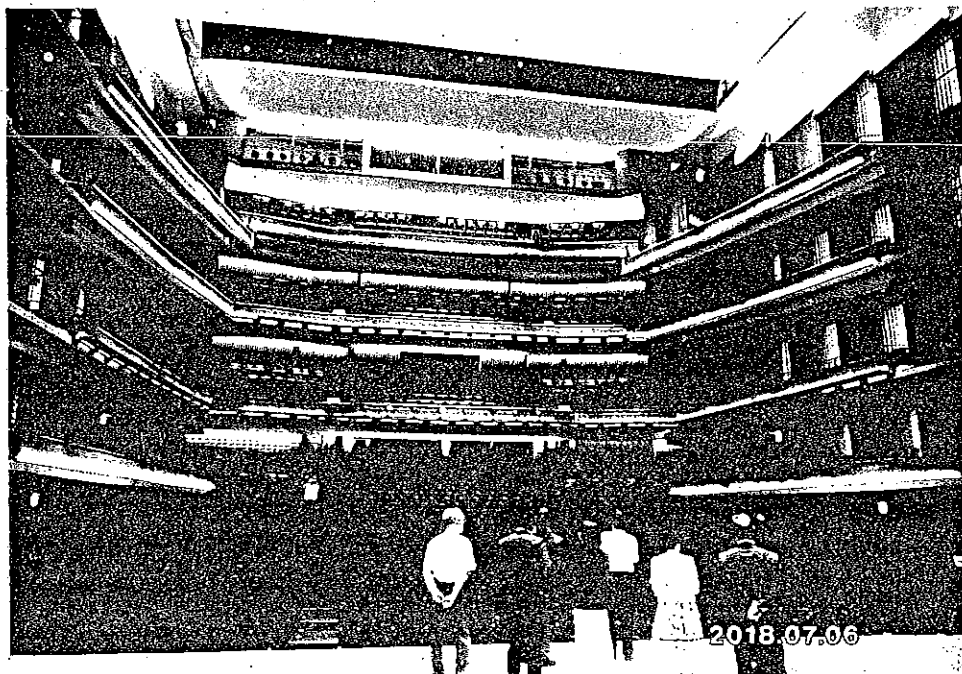
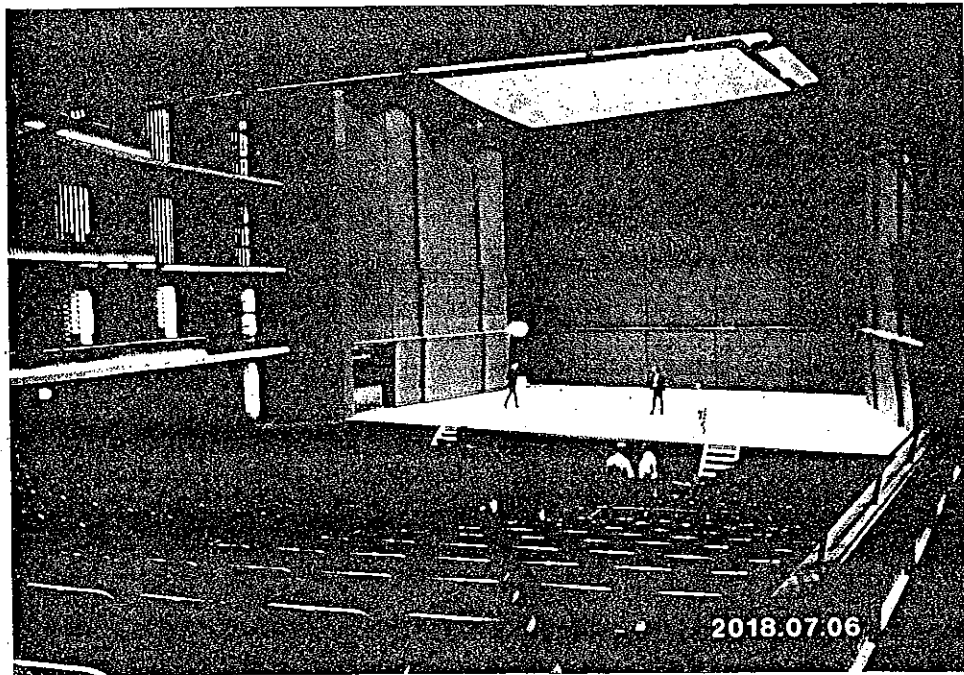
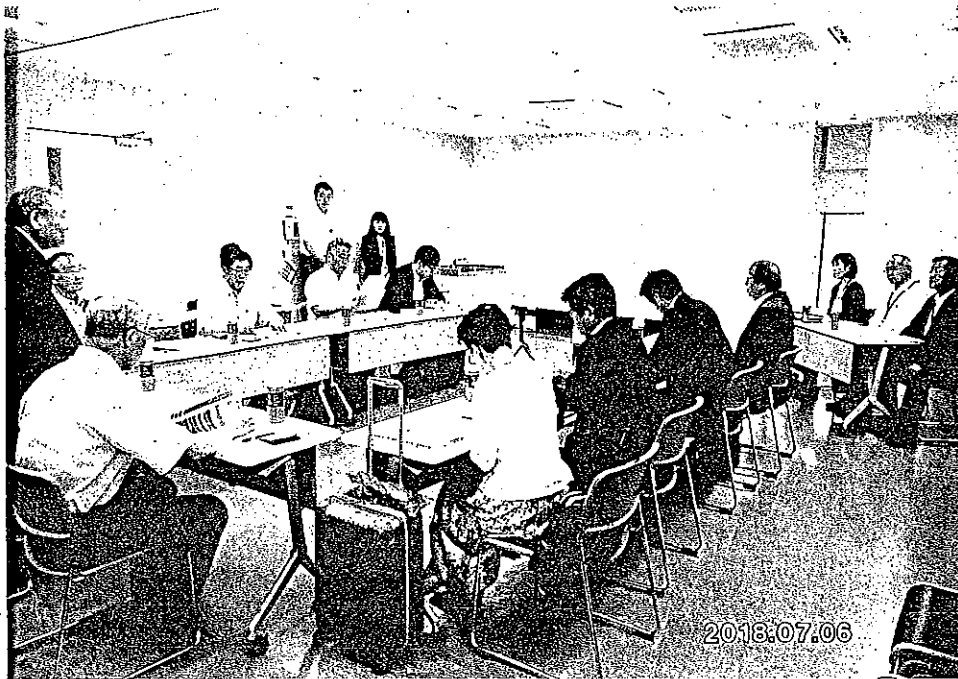
東広島芸術文化ホール  
Higashi Hiroshima Arts & Culture Hall  
<http://kurara-hall.jp/>

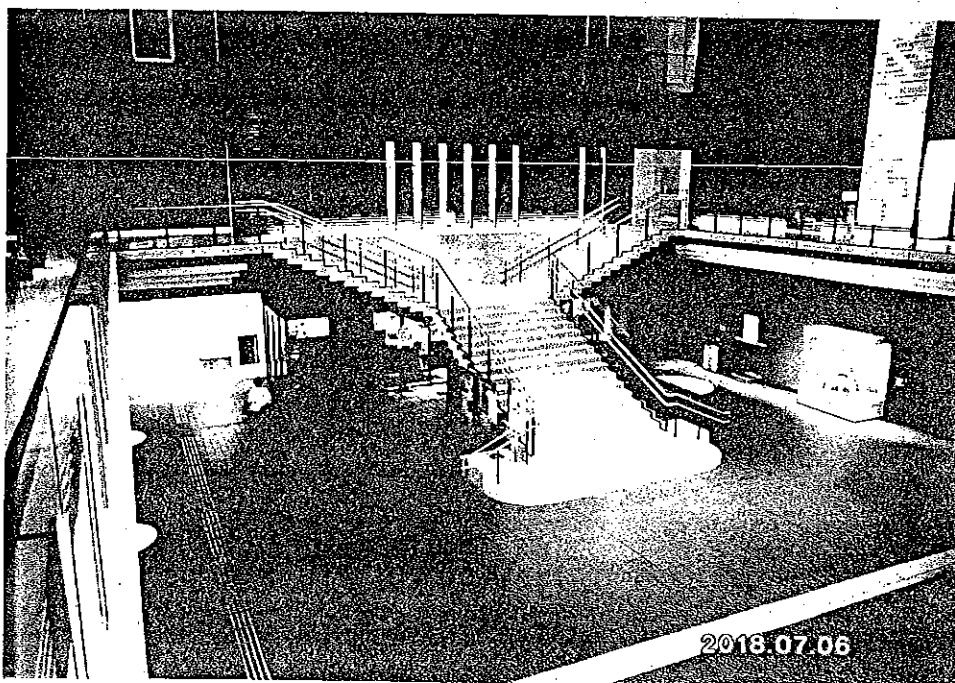
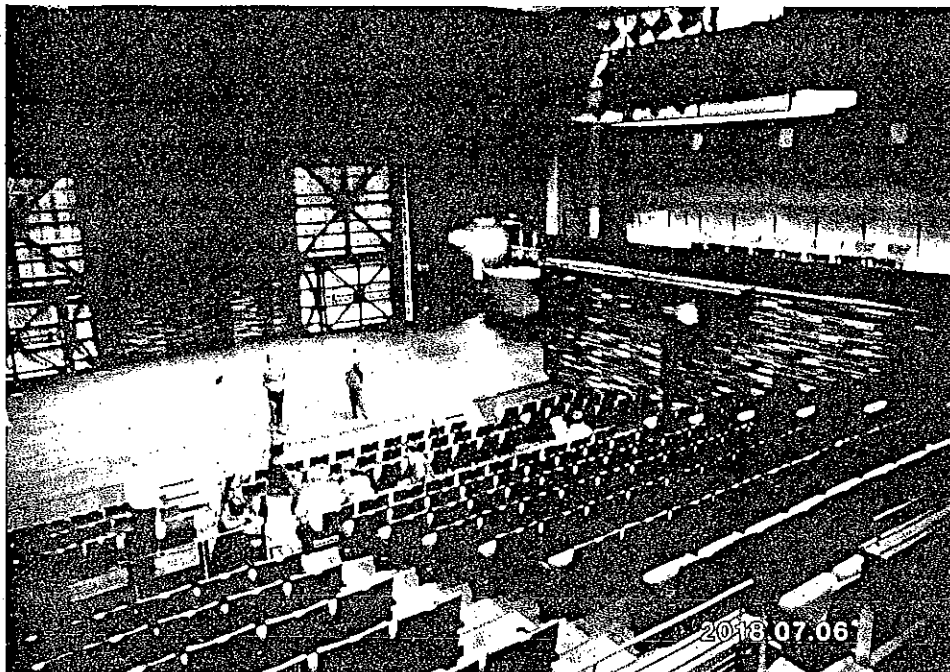
館長 DIRECTOR  
森本 浩司  
Koji Morimoto

〒739-0015 広島県東広島市西条栄町7番19号  
Tel: 082-426-5900 Fax: 082-426-5901  
E-mail: [REDACTED]

真 写







第3号様式（第6条、第8条関係）

平成30年7月20日

会派名 無所属  
代表者名 伊藤 圓子 様

氏名 伊藤 圓子



調査視察等届出書

八戸市議会政務活動費の取扱いに関する要領第6条第1項の規定により、次のとおり届出します。

- 1 旅行者 伊藤 圓子 議員
- 2 期 間 平成30年8月27日(月)～平成30年8月29日(水)
- 3 場 所 北海道帯広市
- 4 目的及び内容 明治北海道十勝オーバル 視察
  - ・ 国際大会の開催と運営について
  - ・ 明治北海道十勝オーバルについて
- 5 経 費 82,780円  
【内訳は、旅費額計算書（第4号様式）に記載のとおり】

第4号様式 (第6条、第8条関係)

旅 費 額 計 算 書

旅行日程			旅 費 計 算 の 基 礎					
行	日	時刻	区 分	基 数	単 価	金 額	備 考	
行	8/27	本八戸駅発 12:44						
き	8/27	帯広駅着 21:21	早見表					
帰	8/29	帯広駅発 8:47						
り	8/29	本八戸駅着 16:42						
経路・滞在地  別紙のとおり			鉄道運賃	669.7k	10,150	18,260	本八戸⇄帯広 (往復割引) (JR北海道加算含む)	
			急 行 料 金	特	2	5,770	11,540	八戸⇄新函館北斗 230.6k
					2	1,190	2,380	新函館北斗⇄南千歳 256.8k (乗継割引)
					2	2,160	4,320	南千歳⇄帯広 176.2k
			特 別 車 両 料 金		2	3,780	7,560	八戸⇄新函館北斗 230.6k
					2	4,110	8,220	新函館北斗⇄南千歳 256.8k
					2	2,750	5,500	南千歳⇄帯広 176.2k
			宿 泊 料		2	12,500	25,000	8/28、8/29 帯広市
				小 計		82,780		
				合 計 (小計×人数)		82,780	1名	

日程表 平成30年8月27日(月)～29日(水)

月日	行程	宿泊
8月27日 (月)	<p>12:44 発 12:53 着/13:05 発 14:37 着/15:15 発 18:11 着  <u>本八戸</u> - JR八戸線 - <u>八戸</u> - JRはやぶさ15 - <u>新函館北斗</u> - JR特急スハ°-北斗15 - <u>南千歳</u></p> <p>19:05 発 21:21 着  <u>南千歳</u> - JR特急スハ°-とかち7 - <u>帯広</u></p>	帯広市内
8月28日 (火)	<p>◆13:30 ~ 15:30 明治北海道十勝オーバル視察 住所:〒080-0856 帯広市南町南7線56番地7 TEL:0155-49-4000</p> <p>①国際大会の開催と運営について(座学)                  ②明治北海道十勝オーバルについて(施設見学)</p>	
8月29日 (水)	<p>8:47 発 11:07 着/11:15 発 14:09 着/14:44 発 16:15 着  <u>帯広</u> - JR特急スハ°-とかち4 - <u>南千歳</u> - JR特急スハ°-北斗10 - <u>新函館北斗</u> - JRはやぶさ30 - <u>八戸</u></p> <p>16:33 発 16:42 着  <u>八戸</u> - JR八戸線 - <u>本八戸</u></p>	



第5号様式（第6条、第8条関係）

平成30年9月21日

会派名 無所属  
代表者名 伊藤圓子様

氏名 伊藤圓子



### 調査視察等報告書

平成30年7月20日付けで届出した調査視察等を実施したので、八戸市議会政務活動費の取扱いに関する要領第6条第1項の規定により次のとおり報告します。

- 1 旅行者 伊藤圓子議員
- 2 期間 平成30年8月27日(月)～平成30年8月29日(水)
- 3 場所 北海道帯広市
- 4 概要 別紙のとおり

実施日時：平成30年8月28日（火） 13:30～15:30

会場：帯広の森運動公園内 帯広の森屋内スピードスケート場（明治北海道十勝オーバル）

説明者

帯広市教育委員会生涯学習部 スポーツ推進室長 葛西 克也 氏  
主幹 河瀬 祐二 氏  
副主幹 村井 和徳 氏

県立八戸芸術パーク・県立屋内スケート場早期建設促進連盟では、2度ほど視察を行っているが、県立屋内スケート場=YSアリーナがいよいよ来年度秋に建設されることから、国際大会誘致の運営方法を中心に視察を行った。

## 国際大会の開催と運営について

### 【1】 概要説明（プロモーションビデオを用いて）

帯広の森屋内スケート場は、総面積 406.5ha の「帯広の森」公園内にあるスポーツ施設の一つで、アイスホッケーリンク 2 面、室内温水プール、野球場、体育館、陸上競技場など 12 施設が整備されている。

帯広の森屋内スケート場は、平成 21 年度より、明治北海道十勝オーバルというネーミングライツを採用し運営している。

明治北海道十勝オーバルは、帯広市出身の清水宏保選手が長野オリンピック（平成 10 年）で金メダルを獲得したことを契機に、平成 17 年に基本計画を策定、平成 19 年に本体工事着工、平成 21 年に完成している。

建設面積は 18,088 m<sup>2</sup>、地上 2 階建て、高さは 19.9m（内部梁下高さ 11m）、総建築面積は 31,368 m<sup>2</sup>、地上 3 階・地下 1 階、軒高 43.45m の長野エムウエーブと比較すると、格段にコンパクトな施設となっている。

当市の屋内スケート場は建設面積 11,983 m<sup>2</sup>、

明治北海道十勝オーバルの構造面での特徴は大きく 2 つあり、

#### ① 観客席がリンクに近い。

観客に熱気が伝わり、臨場感あふれる施設に感じる。長野エムウエーブでは、リンクと観客席が離れているので、臨場感という点を大切にしているように感じる。

#### ② 空気供給

リンクでは、外気との気温差によるもやの発生やリンク表面への霧の付着という課題、観客席には新鮮な空気を供給しなくてはならないという課題、この 2 つを解決するために空気を送風するという手法を採用している。

様々なシミュレーションを行い、湿度が低いという地域特性を生かし選択された手法。高速リンクと呼ばれているカルガリー（カナダ）やソルトレーク（アメリカ）の両リンクは、いずれも標高 1,000m を超えるため気圧の関係で空気抵抗が低い。それに比べ帯広は 81m のため、送付口をリンクの直線真上に取り付け、送風方向に合わせ空気の流れを作ることで、高速リンクへの課題の解決を目指している。

## 【2】 明治北海道十勝オーバルについて 施設見学、リンク運営について

リンク内を歩いて回りながら、各施設や利用について担当者の説明をいただきながらの見学。

### <質問1> 指定管理料について

「帯広の森」公園内にあるスポーツ施設全体で 9 億円。その運営費の中でやりくりしている。

<質問2>建設後の競技人口の変化について

帯広市内のスピードスケートの競技人口は、建設前は約 600 人いると言われ、徐々に減少している傾向にあったが、建設後、減少傾向に歯止めがかかり、徐々に増加し、現在では、約 1000 名にまで増えている。

施設を整備したという効果も大きいですが、清水宏保さんを中心とした“ほっとドリームプロジェクト”はじめ、五輪や世界選手権に出場しているトップアスリートや連盟を中心とした育成モデルが構築され、トップアスリートを目指す環境整備やスポーツとしての魅力を感じていただいていると思う。

<質問3>利用者について

ナショナルトレーニングセンター(NTC)を活用しているため、多くの時間は競技者優先で利用されている。一般滑走も時間を設けているが、基本的に競技者の利用時間の要望を伺い、その空いている時間を一般滑走として提供している。市民の一般滑走利用者を軽視しているわけではなく、以前の屋外スケートリンク時からそうだったが、一般開放しても市民の方々がほとんど来ないという実情の中、理解を得ながらこういった運営状況になっている。

<質問4>ネーミングライツとそれに伴う関連事業について大会時のタイムレコード賞金について

ネーミングライツは建設時、平成 21 年度より、年額 1000 万で株式会社明治様にご協力いただき、「明治北海道十勝オーバル」として命名。リンク正面の壁とリンク室内に掲載している。

スピードスケートでは、タイムレコードが施設にとって宣伝となり財産となる。そのような背景から、大会記録や世界記録を出した方には、タイムレコード賞金制を設け、賞金を設定している。

また、前記してある“ほっとドリームプロジェクト”には別途ご協賛いただき、ソフト面でも盛り上げていただいている。

【3】国際大会の開催と運営について

明治北海道十勝オーバル開場後の大会運営実績

アジアスピードスケート距離別選手権大会 (2010 年)

世界スプリントスピードスケート選手権大会 (2010 年)

全日本ジュニアスピードスケート選手権大会 (2010 年、2012 年)

ジャパンカップスピードスケート競技会 (2010 年、2011 年、2012 年、2013 年、2014 年)

全日本スピードスケート選手権大会 (2010 年、2014 年)

ワールドカップスピードスケート競技会 (2010 年)

全日本スプリントスピードスケート選手権大会 (2011 年)

世界ジュニアスピードスケート選手権大会 (2012 年)

ジュニアワールドカップファイナル (2012 年)

2017 年アジア冬季競技大会スピードスケート競技 (2017 年)

数々の国際大会を運営してきた中で、当市が竣工後 2021 年に控えている「世界ジュニアスピードスケート選手権大会」の運営について詳しく伺った。

<質問1>開催時間帯について

海外での TV 放映などがなかったので、日本スケート連盟に間に入っただき、日本側が運営しやすい時間帯を提案し、決定することができた。それに伴い、公式練習においても大会時間に近い時間を提供し問題なく運営することができた。

<質問2>ホテル需要

国内外から選手 111 名、役員 60 名が参加。

ホテル日航ノースランド、JR イン、で賄うことができた。ホテルに関しては、4 つ星以上

であったり、広さの規定があるが、細かく事前チェックされたり、厳しく注意されることはなかった。

しかしながら、選手がリンク以外でもコンディショニングを整えるために、ストレッチの部屋やトレーニングバイクを置かせて欲しいという要望には臨機応変に対応した。

各国とのやり取りは、近畿日本ツーリストが入り、行ってくれた。

通訳に関しては、ボランティアではなく有償でスタッフを用意した。

### 【所感】

当市において、大会運営においては、ホテル数やランク、部屋の広さの問題を国際スケート連盟(ISU)や日本スケート連盟から課題として問われているが、今回視察を行い、帯広市内のホテルのランクや広さなど、必ずしも規定を全てクリアしていなくても受け入れ可能であることが分かり、とても大きな収穫であった。しかしながら、これに関しては、日本スケート連盟との情報共有や意思の疎通、パイプをしっかりと構築し ISU ともロビー活動できる体制づくりの必要性を感じた。

また、ホテルの部屋が規定に達していない場合などは、選手側からトレーニングバイク設置や軽いトレーニングができる場所、ストレッチルームができる場所の要望があった場合は、ホテルの階を選手だけにまとめ、その階の廊下や一部大きな部屋を提供するなど、柔軟な対応が必要であることがわかった。

運営に関しては、様々なハードルがある点も調査・研究することができ、それぞれクリアできる問題であり、自信となった。

通常の運営に関しては、明治北海道十勝オーバルでは、NTC を誘致し一般滑走者を最優先していない運営方法を行っていた。当市においては、立地上中心街に近いことや一般開放時の利用者が多いことから、NTC を取り入れていくのか、それを誘致するので安定した収入は見込めるものの、貸し切り時間に多くの制限が付くため、一般開放時間をどのように設定していくかなど、新たな課題が生じる。市民皆様の施設なので、バランスをとることも大切であるが、中途半端にならないよう明確な指針を掲げ運営していくことの大切さを感じた。


今回議員連盟としては 3 度目の視察となるが、年数を重ねた中での課題や数々の国際大会を経験したうえでの問題やそれに対する対応を調査・研究することができ、非常に有意義な視察となった。



帯広市教育委員会生涯学習部  
スポーツ振興室

室長  
Obihiro City Board of Education  
Sports Promotion Office  
Director

Katsuya KASAI  
葛西克也

FOOD VALLEY TOKACHI 


1, south7-west5, obihiro, hokkaido 080-8670, Japan  
〒080-8670 北海道帯広市西5条南7丁目1番地  
Tel: 0155-65-4210 Fax: 0155-23-6142  
E-mail: kasai.katsuya@city.obihro.hokkaido.jp



帯広市教育委員会生涯学習部  
スポーツ振興室

主幹  
Obihiro City Board of Education  
Sports Promotion Office  
Director

Yuji KAWASE  
河瀬祐二

FOOD VALLEY TOKACHI 


1, south7-west5, obihiro, hokkaido 080-8670, Japan  
〒080-8670 北海道帯広市西5条南7丁目1番地  
Tel: 0155-65-4210 Fax: 0155-23-6142  
E-mail: kawase.yuji@city.obihro.hokkaido.jp



帯広市教育委員会 生涯学習部  
スポーツ振興室

副主幹  
Obihiro City Board of Education Lifelong Learning Department  
Sports Promotion Office  
Deputy Director

Kazunori Murai  
村井和徳

FOOD VALLEY TOKACHI 

1, South7-West5, Obihiro, Hokkaido 080-8670, Japan  
〒080-8670 北海道帯広市西5条南7丁目1番地  
Tel:0155-65-4210 Fax:0155-23-6142  
E-mail: sports@city.obihro.hokkaido.jp